



こんな人、知ってる? ~実は2回目~

T「今回のテーマは人です。人物特集をします!」

F「実は2回目みたいなんですよね」

M&T「えっ、そうなの?・そうなんですか?」

F「まだTさんがいないときですけど……たしか、伝記コーナーに「くまモン」の本が
おいてあったって……」

M「あっ! そうだ、くまモンね! あったあった。そのときは伝記特集だったっけ? 今回はど
んな人が集まるの?」

F「今度、新紙幣に変わるなーと思って、とりあえず、渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎
あたりは集めてみました。渋沢栄一ってあまり知らなかったんですけど、読んでると、今
でも有名な会社名が出てきたりして」

T「銀行をつくったことでも有名な人みたいですね」

M「偉人か……武将とか?」

F「私、織田信長とか坂本龍馬が「会いたい・上司にしたい」みたいな歴史人物ランキン
グで上位になっているのを見ると、なんで?! 怖くない?! っていつも思うんですよ」

T「たしかに、刀もってますよね。き、斬られる?」

M「歴史人物って美化されていってるよねえ。最近、イケメンに描かれた伝記マンガと
かもあるけど、実際はちょんまげ……歴史上で、イケメンって誰なんだろう」

F「それは~、やっぱり土方歳三じゃないですか?」

M「新選組の! 有名だよ。あとさ、大津皇子って、優秀だったために暗殺された悲劇の
皇子なんだけど、優秀&悲劇の皇子っていうので、私の想像ではイケメンになってる」

F「いや、どういう理由ですか」

T「Fさんは、会ってみたい歴史人物っているんですか?」

F「平重盛です! 平安時代の人で……」

M「Fさん、そのあたりの時代好きだもんね。Tさんは?」

T「うーん……すぐには思い浮かばなくて」

M「歴史人物じゃなくてもいいのよ? あ、池上彰は?」

F「えっ、急に?!」

M「ほら、なんでもすぐに教えてくれそうじゃない? いい
質問ですねえ~って」

T「池上さんに会えば、なんでも即答できるようになれ
る……?!」

F「ちょっとTさん、それは無理だよ?!」 <https://www.instagram.com/hondarake55>

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★



←QR コードでも
アクセスできます



ホンダラケ

2024. 2.1

ホンダラケ発、人物PR!

今も昔も、日本も世界も、
いろんな人の本を集めてみました。

『甘くてかわいいお菓子の仕事』

自分流・夢の叶え方』

KUNIKA/著

河出書房新社 2017年刊



289.1/クニ

著者の KUNIKA さんは、「スイーツアーティスト」として活躍されています。お菓子作りやファッション、海……自分の好きなものを全部ひっくるめて、仕事にして、人を笑顔にできるものづくりがしたい! それまで誰もやったことがなかったことを、スイーツアーティストという新しい職業として実現したかたです。

この本では、それまでの人生、不安や嬉しかったことがつづられています。夢を叶えたあとも、新しい夢を見つけ、挑戦し続けていく彼女の姿や言葉は、自分のやりたいことに向かって踏み出してみよう、という人たちの背中を押してくれます。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「音楽」

本棚から奏でられる音楽はきっと青春の響き♪

『くちびるに歌を』

中田永一／著 小学館

2011年刊



F/ナカ

五島列島にある、とある中学校。東京からやってきた美人先生によって女子しかいなかった合唱部に男子が殺到!そんな部員に先生は、15年後の自分へ手紙を書く課題を出す。そこには、15歳のみんが抱える悩みと秘密が綴られていた。方言を交えて書かれており、色々な人の視点で物語が進んでいきます。みなさんもこの物語に共感しながら読んでみてください。

P.N. もも (中学2年生)



新着図書 Pick Up

『ホワイトバード』

ほるぷ出版 2023年

R・J・パラシオ／原作 エリカ・S・パール／ノベライズ 中井はるの／訳



933/パル

世界的ベストセラー、映画化もされた『ワンダー』。そのスピノフ作品です。この作品の主人公は、『ワンダー』でオーガストをいじめていたジュリアン。

ジュリアンが聞いたおばあちゃんの子どものころ。ユダヤ人である彼女を助けてくれたのは、足が不自由なためにいじめられていたトゥルトーだった。そこから始まる隠れ家生活。どうして自分が隠れなくてはいけないのか、いつ戦争は終わるのか、両親は無事なのか。生活中的不安と、その中での親切と友情と恋。『アンネの日記』を思わせるような物語です。

『ワンダー』を読んだことなくても大丈夫。戦争だけでなくいじめの観点からも平和を思わせてくれる作品です。

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『青春ハンドメイドシリーズ』 学研プラス 2019年



594/19

文化祭や体育祭の出し物でおそろいの衣装を作りたい…。部室のディスプレイにオシャレな棚があったら…。おそろいの小物を親友と持ちたい…。それ、作れます。そりゃまあ多少の技術と時間とセンスと予算は必要かもしれませんが、「え?それ手作り?」って言われるくらいのクオリティーが詰まっています。中学も高校も3年間しかないんだもの。あの頃みんなで頑張って作ったなー。楽しかったなー。と大切な思い出になる一品をきっと作ることができるでしょう!れつつちゃれんじ!

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『どくとるマンボウ航海記』 北杜夫／著 新潮文庫

1987年刊

芥川賞作家でもある著者。1958年11月半ばからの5か月間、医者として船に乗り、世界を回った記録。

決定から出航まで3日。準備にてんやわんや。無事?に出発してから、揺れる船におおわらわ。

具合が悪くて相談に来たはずの船員の破天荒っぷりや、寄港地での著者の自由すぎる(言葉が通じていないのにそのまま押し通して意思疎通するとか!)言動に驚かされっぱなしです。

大真面目に書いてあるのに、だからこそにじみ出るユーモア。ドタバタ劇を見ているかのような楽しい一冊です。



915.6/キタ